

にこにこ通信 12月号 「子どもの叱り方」

今年も 1 年が終わろうとしています。子育てをしているとあっという間に時間が過ぎていきますね。子育てをしていて、「また子どもを叱ってしまった。」って思うことはないですか。「怒るのではなく叱りましょう」というのは、よく言われています。「怒る」は、感情的に自分のイライラや怒りをぶつけるもの、「叱る」は、子どもを思って間違いを伝えることです。大人の伝えたいことを正確に伝えるには、「伝え方」も大切です。どのようにすれば上手に伝えることができるのかそのポイントをお伝えします。

○子どものした行動を叱り、人格は否定しない。

叱るときは、「そんなことして、○○ちゃんはダメだね。」「あなたは悪い子だ」など人格を否定するような言葉は使わず、「それをやったらダメだね」など間違っただけの行動に対して叱りましょう。

○その場で短い行動で叱る

指示やアドバイスは、具体的に何が間違っていたのかを短くシンプルに伝えましょう。「道は危ないから飛び出しません。」「今は椅子に座って食べます」というように要点だけをわかりやすく伝えるようにしましょう。

○ほかの子と比較して叱らない

「ほかの子はちゃんとできているのに、あなただけできない」「上の子はできたのにあなたは何でできないのか」などの言葉かけは、自分よりほかの子、ほかの兄弟姉妹のほうが「できる」と感じてしまい「自分は何をやってもダメなんだ」と思い込むようになり、自信を失ってしまうかもしれないので注意しましょう。

○言葉や手本で「してほしい行動」を示す。

子どもは、叱られて行動を止めることができても、「ダメ」と言われただけでは次にどうすればいいのかわかりません。「走っちゃダメ」→「歩こうね」、「散らかさない」→「ここに片付けようね」など、叱ったことに対して、次にしてほしい行動を示してあげることで、その後の行動がととりやすくなります。

大人とはいえ、感情的になることもあると思います。大切なのは、そのあとです。「言い過ぎたな」と思ったらきちんと謝りましょう。その場ですぐに冷静になれないときは、ちょっとその場を離れて時間を空けてからでも大丈夫です。大人がきちんと謝ることができれば、子どももそれをお手本にすることができると思います。